

1 コース トラフィックルール (練習時)

- 玉川ダムボートコース (以下コース) での航行は、右側通行とする。
- 2012年1月23日現在、上流側から下流側方向3コース・下流側から上流側3コースにて航行する。今治南高校艇庫対岸よりレーン番号1・2・3・4・5・6とし、1レーンの外側,6レーンの外側を予備水域とする。
- 練習時のセンターラインは、3レーンと4レーンの間とし、明確に認識できるブイにより識別。約100mおきに35cmブイ・コース両端 (ターニングブイ) に80cmブイを設置。
- コース内は航行するクルー優先。(追いつかれそうなクルーは速やかにコースを譲り、コース外側に移動する)
- 原則的に、センターラインに近いレーンほど艇足の速いクルーとし、技術練習など艇足の遅いクルーは極力予備水域にて航行する。
- クルーはコース両端の大型ブイにてターンする。両端水域で休息を取る場合は、両端ブイ通過後100m以上後方または、ターン後0か6レーンにて休む。原則的にコース途中にての横断を禁止する。
原則的に並漕での練習は、下り・上り2艇までとする。(監視艇がつき、他艇が水域にいない場合はこの限りではない)
- シュトレッケなど同一区間を併走にて繰り返し漕ぐ場合・・・(懸案事項)
- 練習水域 (南高校艇庫前・スタート南側水域) の航行ルールについては、南高校前・・・右回り(時計回り) スタート南水域・・・**右回り(時計回り)とする。**

2 安全対策・その他

- 練習中は必ず救命艇を浮かべ、監視員は、双眼鏡・単眼鏡および携帯電話を携帯しておく。原則的にセンターブイには、自動点滅の赤色ライトブイを100mおきに設置、夜間のセンター位置を明確にする。
- 夜間航行するクルーは、艇首側に通常色ライト (LEDライトは黄色のテープを貼る) 艇尾側は青色のライトを点灯させる。(赤色点滅灯は使用不可)
- 練習中、後方より進んでくる艇を回避できそうに無い場合は、最低50m手前まで

に大声をかける。(例 ダブル！・フォア！・シングル！等)

- カタマラン・トリマラン等引き波の少ない救命艇・コーチ艇の練習艇への伴走については、周囲の練習艇に細心の注意を払いながら実施し、コースの逆走は避ける。夜間の救命艇には、赤色点滅灯以外の常時点灯するライトを掲示する。(警備誘導灯が望ましい)
Vハル等モーターボート型による伴走は、引き波のあまり立たない範囲での速度にて実施。(レスキュー時、他艇のいない場合はこの限りではない)。
- 指導・監視者は、危険回避・救助行為等安全対策上必要と思われる事項については、所属団体関係なく指示をだせ、その指導に各団体は従うものとする。
- 沈・事故の発生連絡は、水上の全クルーが協力して最寄の監視者に通報する。

3 備 考

レジャーボート (バスボート・浮き輪・ロウボートでの釣りについて)

- 原則的に、同水面を利用していることを認識し、利用水域の区分化等(棲み分け)により、相互にトラブルなく共存・協力できるよう努力する。(コース占有許可がおりた場合については、追って明記)
- 競漕用ボートは、コースおよびコース周辺にて活動を行い、上記レジャーボートはその水域への立ち入りを控えて頂くようお願いする。(ダム湖横断については十分な間隔を確認し、引き波が競漕用ボートに影響を与えないように注意を払いながら行うようお願いする。)
- 引き波による競漕艇転覆、重大事故発生の可能性が極めて高いため、原則的にエンジンでのレジャーボート移動は控えてもらえるようお願いをする。(電動推進機・人力での移動をお願いする)

レジャーボート (ジェット・ウエイクボード・水上スキー・ラジコンボートについて)

- 原則的に玉川ダム湖への搬入を控えて頂くようお願いをする。

レース時のトラフィックルールについて

- 当該大会競漕委員会と協議して決定。
-